

静岡
SHIZUOKA

健康筋力アップで 活力ある健康社会を

静岡県が推進する富士山麓先端健康産業集積構想（通称：ファルマバレー構想）は、「研究開発の促進と医療関連産業の振興・集積」を実現するという目標を達成するために3つの戦略と1つの支援戦略を掲げています。その1つとして「ウエルネスの視点でのまちづくり」があり、科学的手法による健康づくりの推進が柱のひとつとして位置づけられています。具体的にはトレーニングマシンの開発や指導者育成、各種調査・研究を実施することにより青少年から高齢者までの健康増進・体力向上に寄与することを期待するものです。

静岡県総合健康センター（三島市谷田）では、走動作の改善や正しい走動作の学習効果が大きく、ランニング記録の向上が図られるスプリントトレーニングマシンや走動作に必要な脚および骨盤・腰椎部の体幹深部筋が強化される車軸移動式スプリントパワー自転車、股関節運動に関与するハムストリングス（膝屈曲筋）のストレッチが図られたり、股関節を伸展させる筋群（大腰筋、大殿筋など）が総合的に強化されるベッド



静岡県総合健康センター



子ども走り教室

移動式大腰筋トレーニングマシンなどが完備され、インストラクターの育成に力を注いでいます。

すでにスプリントトレーニングマシンを利用した県内高校の陸上部が成果を挙げています。また、地域の小学生を対象に、トレーニングマシンを使って運動能力を高めるとともに、運動に対して興味を抱かせる「走力向上短期プログラム“親子の楽しい運動教室”」が行なわれています。

さらに最近では、三島市内でトレーニングマシンを製造する企業やマシンを導入し市民の健康増進やトレーナーの育成を行う企業が出始めてきています。健康産業に関わるものづくりと県民一人ひとりの健康づくりの推進という構想の成果の一端が現れてきています。

ファルマバレー構想の挑戦は始まったばかりではありますが、官民一体となり構想の目標に向かって着実に実績を残してきており、より生活しやすく豊かな地域が形成されてきています。

神奈川
KANAGAWA

老舗旅館・ホテルを 「新たな観光資源」に

地域とともに歴史を刻んできた文化財級の旅館・ホテルが、神奈川県内の観光地で「新たな観光資源」として注目されている。文化財保護の流れが保護一辺倒から「活用しながらの保存」へと変わる中で、今後「老舗旅館・ホテルツアー」が一定のマーケットを形成することも考えられる。

箱根町教育委員会が社会教育講座の一環として主催する「老舗旅館探訪会」には、毎回定員の5倍もの申し込みが殺到する。2004年度は湯本の福住旅館、塔之沢の環翠楼と福住楼、小涌谷の箱根小涌園（迎賓館、貴賓館）、強羅の神山荘、宮ノ下の富士屋ホテルなどを訪ねた。

福住旅館は「明治初期擬洋風建築の貴重な遺構」といわれ、2002年に営業中の旅館として全国で初めて国重要文化財に指定された。また、富士屋ホテルは「明治初期および昭和初期に建てられた、全国的にも数少ない現存する初期ホテル建築」とされ、1998年に国の登録有形文化財に登録されている。

探訪会は文化財への理解を深めてもらう目的で1997年からスタートしたが、宿泊予約が難しい「名館」を支配人らが直接案内する手法を取ったことで人気も沸騰。最近は県内各地や東京都内からも参加の申し込みがあり、新たな観光需要を開拓する役割を果たすようになった。

一方、横浜では老舗のホテルニューグランドが「要望があれば『館内ツアー』を行いたい」と意欲的。同ホテルの初代



福住旅館（国重要文化財、箱根湯本）

料理長と交流のあったスイス・ベルン司厨士協会の関係者が今年5月来日した時には、高橋清一総料理長が厨房をはじめ全館を案内するホスピタリティー（もてなしの心）を示した。

同ホテルは1927年開業の日本を代表するクラシックホテルで、本館には開業当時の建築デザインが多数現存。また、終戦直後に進駐軍のマッカーサー元帥が泊まった部屋、作家大佛次郎が10年間近く滞在して「鞍馬天狗」「霧笛」などの傑作を執筆した部屋なども残っている。

こういった文化財級の旅館・ホテルの活用は、文化財保護法が改正されて文化財登録制度ができてから徐々にスタート。「文化財を資産として生かす」という考え方の浸透に伴って、老舗旅館・ホテルが新たな観光資源として注目されるようになってきた。